

コモンズ投信株式会社  
代表取締役社長 伊井哲朗  
東京都千代田区平河町 2-4-5

**～ ザ・2020ビジョン「第1回 コモンズ POINT(障がい者スポーツを応援するプログラム)」の応援先が(特)日本視覚障害者柔道連盟に決定いたしました ～**

このたび、コモンズ投信株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:伊井哲朗、以下「コモンズ投信」)は、弊社の顧客、投資先、その他ステークホルダーと共に「今日よりも良い明日」をつくるという創業理念に基づくザ・2020ビジョンファンドの寄付プログラム、コモンズ POINT(障がい者スポーツを応援するプログラム)の第1回応援先を、(特)日本視覚障害者柔道連盟に決定いたしましたので下記にお知らせいたします。コモンズ POINT は、コモンズ SEEDCap(社会起業家応援プログラム)に次ぐ、新しい応援プログラムです。

記

1.コモンズ POINT(障がい者スポーツ応援プログラム)について

このザ・2020ビジョンは、2020年を起点として日本が大きく変わる。その「変化」をファンドを通じて、皆さんと共有していきたいとの想いで作りました。大きな変化の一つは、東京では2020年に四人に一人が65歳以上になることが予想され、世界でもっとも高齢化が進む都市になることです。その東京でオリンピックとパラリンピックが開かれます。当社では、パラリンピックがもっと社会的に注目される必要があると考えています。障がい者スポーツに理解が深まれば、社会的なダイバーシティ(多様性)への理解が深まり、バリアフリーやヒートアイランド対策も進むはずで、加えて、障がい者の方の日常生活を自然に社会がサポートするようになって考えているからです。その結果、世界でもっとも高齢化が進む都市が、高齢者にとっても住みよい都市になるはずで、今後、世界の主要都市が高齢化する中で、日本が貢献できる分野も飛躍的に増えると考えています。

そこで、当ファンドから当社が受け取る信託報酬の1%程度を日本の障がい者スポーツのチャレンジャーなどを応援する独自の応援プログラムとして、コモンズ POINT を設けています。※ファンドからの拠出ではありません。

2.応援先決定プロセスと団体概要

○選定基準

- ・ 障がい者スポーツの振興に取り組み、日本のダイバーシティ推進に活躍が期待される個人及び団体
- ・ 資金使途など、財務内容のディスクロージャーがしっかりとされていること

#### ○選定方法

- ・最終候補者を事務局となる当社で選出。
- ・「ザ・2020 ビジョン」の受益者及び当社社員から、自分が推薦したい候補者を選び、理由と共に事務局に提出。
- ・外部審査員を含む最終選考委員会を開催し、受益者及び当社社員からの推薦理由も参考に応援先を決定する。

#### ○スケジュール

- ・「ザ・2020 ビジョン」の決算時(12月)に翌年度の応援先最終候補者を決定し、毎年審査を行う(連続しての受賞も可能)。翌年度末の「ザ・2020 ビジョン」の残高に基づき、寄付額を決定する。
- \* 第1回目の応援先は、2015年、2016年の2年分の寄付金を授与することとする。

#### ○最終候補者3団体名

##### ◎第1回応援先：(特)日本視覚障害者柔道連盟

『「視覚に障害があるとは思えない」・・・これが視覚障害者柔道を観戦した観客から寄せられる多くの言葉です。東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定しても、いまだに理解が進まない視覚障害者柔道。目が見えないからこそ磨かれる聴覚や触覚。そして技のみならず精神も磨かれる美しい日本の柔道。柔道は人間教育です。日本柔道はいま、健常者と障害者が一つになり、ともに力を合わせて若者を育てることで、日本の明るい未来創造のためにまい進しています。そのためにも多くの皆様のご支援を頂きながら、若手選手の発掘や育成への環境整備を推進し、更なる視覚障害者柔道の発展を目指していかなければなりません。

2016年は、新たな試みとして柔道教室の開催を計画しております。未来を担う子供達や若い世代の方々に実際に体験してもらい様々な可能性を見出していくと共に、視覚障害者柔道を理解していただく交流の場を設けることにも力を注ぎます。』これは POINT 応援先を決定する際に、(特)日本視覚障害者柔道連盟理事 遠藤義安氏(男子監督)より預かったアピールメッセージです。

##### ○団体名：一般社団法人 日本車椅子バスケットボール連盟

ビジョンワード：五感で楽しむスポーツ、車椅子バスケットボール！

発信者名：事務局長 小瀧 修 氏

web サイト：<http://www.jwbf.gr.jp/>

##### ○団体名：(特)日本知的障がい者陸上競技連盟

ビジョンワード：知的障がい者への理解を求めて

発信者名：事務局長 浅野 武男 氏

web サイト：<http://www.jidaf.org/index.html>

#### ○最終選考委員会メンバー

- 小澤直氏(日本財団パラリンピックサポートセンター)
- 澤邊芳明氏(ワン・トゥー・テン・ホールディングス)
- 田口亜希氏(日本郵船・パラリンピアン／射撃)
- 洪澤健(コモンズ投信)
- 伊井哲朗(コモンズ投信)
- 馬越裕子(コモンズ投信)

#### ○最終選考委員会

最終選考委員会では、候補の3団体に票が割れました。それは、3団体の活動がいずれも素晴らしいことを表していました。その中で、障がい者スポーツへの理解を深めるためにすそ野を広げることにフォーカスするのか、あまり知られていないからこそ取り上げるべきなのかなど、その選考の視点を中心に議論が進められました。そして最終的に決まったのが、日本視覚障害者柔道連盟です。決め手となったのは、受益者の皆さまとコモンズ投信の社員ともに推薦が一番多かったことに加え、リオのパラリンピックを目前に日本古来の柔道という種目でありながら、まだまだ一般的に注目されていない同連盟の活動にスポットライトをあて、真のダイバーシティの活動につながるよう皆さまとともに応援したいとの想いでまとまったからでした。

#### ○受益者及び当社社員からの声抜粋

- ・目が不自由なことで研ぎ澄まされる感覚を実際に見る機会や知る機会を増やしてほしいと思うから。(男性 13才/大阪府)
- ・何か体の機能の一つ、うまく機能しないものがあったとしても、他の機能がちゃんとカバーして生きることができる。そんな人体の大きな可能性を感じられる取り組みだと感じました。また、10年ほど前から日本の伝統や伝統的武術が人の潜在力を引き出す素晴らしいものであることを知り、その中の一つである柔道にも大きな興味と可能性を感じるため。(女性 37歳/兵庫県)
- ・日本の国技である柔道の視覚障害者の団体である当連盟への寄付を通じて、広く海外に柔道の良さ、すなわち、技のみならず精神も磨かれる日本柔道の理解を深め、さらに健常者と障害者が、ともに力を合わせて若者を育てることで、視覚障害者柔道の発展を目指し、かつ、日本の明るい未来を創造している姿勢を発信して頂きたいから。(男性 コモンズ投信社員)

#### ○受賞の喜び

- ・速報を仙台にいらっしゃる遠藤監督にお伝えしたところ、信じられないという想いと共に、益々、頑張りますとの決意のお言葉をお預かりしました。また是非、講道館などで開催される大会を多くの方に見に来てほしいとお誘いをいただいています。

次の大きな大会は、5月4日(水)9:00~12:00

『リオデジャネイロ・パラリンピック柔道競技 日本代表候補選手選考大会』が東京都文京区にある講道館で開催されます！詳しくはこちらをご覧ください。

[http://judob.or.jp/oshirase/2016/160121\\_riopara\\_1.html](http://judob.or.jp/oshirase/2016/160121_riopara_1.html)

また、惜しくも受賞を逃された最終候補の2団体の広報活動につきましても協力して参ります。

以 上

お問い合わせ先: POINT担当 馬越裕子(03-3221-9230、[yuko.umagoie@commons30.jp](mailto:yuko.umagoie@commons30.jp))

